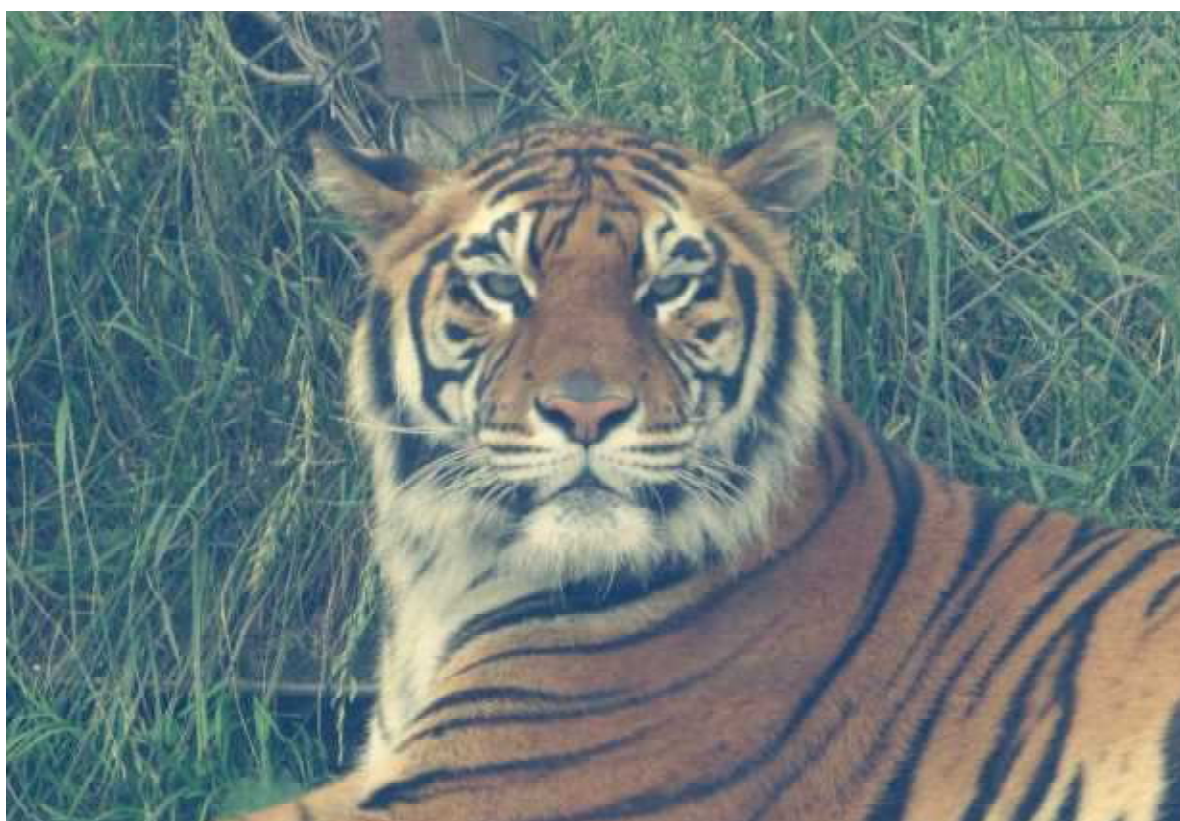


かすみ草



アフリカンサファリ～車窓より (令和4年撮影 理事長 土谷 力)

NO.58 *2022.12*

日本の八百万の神々の信仰について。

理事長 土谷 力

日本の神々は「八百万の神々」として信仰されている。八百万とは実際の数のことではなく、無数という意味であり、日本に神社は十万社あると云われ、山や巨石、森の木々、さらにはトイレに至るまで、あらゆる場所に神がいる。



世界的に主流な宗教の多くは、世界の三大宗教のキリスト教、イスラム教、仏教をはじめ神様は一人だとする「唯一神」であり、万能の力を持つとされる「絶対神」である。間違いを犯すことがない完璧な存在、絶対的な正義の象徴であり、人々にあらゆる恵みとあらゆる罰を与える。

それに対して、日本の神々は必ずしも「絶対的存在」ではない。なぜ日本ではこの様な信仰が生まれたのか考察すると、四季があり、稲作を中心に自然の影響を受けている。だから、自然を畏れ、神として崇めてきた。



キリスト教を信仰するヨーロッパの背景としては、気候が安定して、あまり自然の影響を受けず草地が多く狩猟文化を基本とした社会だった。キリスト教の旧約聖書では、最初の間であるアダムが神によって創造された後に、他の動物がその下僕として創造されたとする創世



神話がある。キリスト教は、ヨーロッパの人々に合った信仰のカタ

チと言える。

また、日本では祖先崇拜を中心とした、ご先祖様を大切に敬うことがあり、日本では当たり前前に思えるが、世界的に見た場合、東アジア地域と太平洋の一部の島にしか見られない珍しい信仰のカタチである。人々に強い影響を与えられた人物が死後に神として祀られている。神とは人々に強い影響を与える上位の存在であり、かつ人間も神の子孫であるそのような考え方が、これもまた、日本に八百万とする無数の神々が生まれたのである。

日本の神は、神は一人だとする「唯一神」であり、万能の力を持つとされる「絶対神」である神の考え方と違い、必ずしも絶対的存在ではない。人間は仕事をし、恋愛をし、結婚、出産をする。死、又恵みを与えることもあれば、時に荒れる側面を発揮して、人間に害を与える。日本に住んでいる神様は人間の側面である。その様な条件を考えると、日本において八百万の神々が生まれてきたのであり、ヨーロッパでは、キリスト教、イスラム教、仏教では、唯一神が中心となっている。



日本における八百万の神々信仰は、世界的にみれば一部の信仰形式であるが、日本の特質にあった八百万の信仰は今後共、信仰のカタチとして充分に考えに行くことが必要である。

日本における八百万の神々がいることは大変特異なことではあるが、この制度を守って行くことが必要である。日本国の八百万の神々が人間の万物の霊長と考えている日本人の宗教感を生かしていくべきである。



自分の役割

課長補佐

関口 宏

コロナ禍も今年で三年目を迎えますが、まだ落ち着く事なくとても厳しい状況が続いています。

自分の役割は、就労B型、グループホーム、福祉タクシー、栄養部門の課長補佐を行っています。



特に就労B型事業ではコロナの影響もあり、とても厳しい状況が続いています。就労B型の利用者様と職員が一丸となりお客様に納得して貰える様な良い商品（パン、クッキー）作りを行い、少しでも販売数を増やし収益を上げて利用者の工賃向上が出来る様にと日々努力をしています。



グループホームを利用してはいる利用者についても、少しでも早く地域移行が出来る様な環境作りや、グループホーム生活が楽しく有意義に過ごせる様に努力していきたいと思っています。

福祉タクシー、栄養分野においては、難しい問題や課題等が多くあると思っています。その際、携わる職員と意見交換や協力により、連携し問題や課題を早期解決し働きやすい職場作りを築きたいと思っています。



最後になりますが、とても重要な役割を担っておりますので「再度、気を引き締めて」頑張っていきたいと思えます。



地域貢献に於ける施設の役割

係長

渡邊 佳津子

コスモスは平成二十七年より、「大分くらしサポート」という県社協が母体となる生活困窮者支援事業に参加しています。

市内では現在登録されている施設もあるようですが、当施設はいち早く手を挙げて賛同し、実際に活動している唯一の施設でもあり、七年間で約四〇件の相談がありました。



コロナ禍で色々な制限や我慢をしている中での

生活困窮の実情は、更に苦しいものになってきていると思われれます。環境の変化により病になってしまい働けない方、移住後農業を始めるも収入が見込めない日々が続く、幼いお子様を抱え困窮に陥ってしまった方、失業と精神的ストレスにて塞ぎ込んでしまい、社会からの孤立感からなかなか抜け出せないでられる方など原因は様々ですが、サポートを必要とされている方がまだまだ多数おられます。



実際の活動で、短期間内に於ける生活の立て直しは困難にも直面しますが、コスモスは福祉施設の利用者様のご支援だけでなく、市内地域の皆様を大切に考える取り組みを重要視するとともに、福祉施設だからこそできる活動を行うことがコスモスの役割であると考えています。

今後も地域の皆様や社会に貢献していけるよう、研鑽と実績を重ねていきたいと思えます。



花見

担当 伊藤 光博

今年の花見行事もコロナウイルスの関係で施設内行事となりました。催し物はカラオケ大会を行い、皆楽しく参加し、大変盛り上がりました。コロナ禍のストレスも、大きな歌声で吹き飛んだように思います。

昼食は日頃より豪華な弁当を、そしてジュースや御菓子なども配布し、利用者の皆さんとても満足した様子でした。



来年こそはコロナ終息を期待し、外で楽しく実際の桜を見ながらお花見を楽しみたいものです。

クリスマス会

担当 渡邊 佳津子

十二月十六日、コスモスクリスマス会が開催されました。

理事長の挨拶で会が始まり、映画DVD「海猿」を鑑賞、利用者さんは真剣に観入っており、職員と共に楽しんでいました。

また、理事長と事務長がプレゼンターとなり、クリスマスのお楽しみであるプレゼントを渡されると、利用者さんの笑顔がはじけていました。昼食についても、日常より豪華なお弁当を堪能し、皆さん目を輝かせている姿を見ると、喜んで頂いたことを何より嬉しく思いました。

コロナ禍は、非情にもまだまだ続いて行きそうな感じもします。行事としては感染症予防の観点から、内容は縮小となりましたが、年に一度のクリスマスを通じて、日常とは違う楽しみを提供できたことは、とても良かったと思います。今後も利用者さん目線を大切に、行事に携わってまいります。

早くコロナが終息しますように！



ドライブセラピー（生活介護）

担当 河野 正孝

コロナウイルス感染症も3年目となりますが、まだ大分県や豊後高田市でも感染が拡大してきており、施設でも中々面会や帰省が出来ない状況であります。その為、利用者の楽しい事が失われ、情緒の安定が保たれにくくなっているのが、日常生活の場を離れ、ドライブを通して情緒の安定、気分転換を図る事が出来ればと思いついて毎月の火曜日にマイクロバスにて、国東方面や宇佐方面、杵築方面へ出掛け、耶馬溪には紅葉を見にドライブへ出掛けました。

利用者は外出を楽しみにしており、車内で、利用者同士楽しく会話をしたり、車内からの景色を楽しんだりしていました。利用者の喜んでいる姿を見ると心が救われます。新型コロナウイルスが、一刻も早く終息し、心おきなく行事等や帰省、面会が出来る様に願うばかりです。



ドライブセラピー（就労B型）

担当 土谷 雅美

就労B型利用者様のストレス軽減を重点的に考え、コロナウイルス感染予防対策のもとドライブセラピーを行いました。

臼杵市の蓮公園に着くと、見学者が少なかったためソーシャルディスタンスを保ちながら見学を行いました。

蓮は地中に根を下ろし、そこから茎を伸ばして水面に花



を咲かせる植物です。泥の中から生まれる出る水生植物で、美しい花を咲かせることから花言葉は「清らかな心」だそうです。その蓮の凛とした咲く姿に、利用者様も自分のカメラで撮影しながら、外の空気を感じリフレッシュする事が出来たようです。

また、体調不良で長く行事を不参加となっていた利用者様も参加出来、久しぶりに全員揃ったの行事



事となったことも感慨深く、行事予定が中止、縮小されるなかドライブセラピーを行えたことに、利用者様より感謝する言葉も聞かれました。職員一同、利用者様の気持ちを大切に支援していきたいと思えます。



健康管理について

看護師 渡邊博子

生活をより健康に送るには、日頃の健康管理が重要です。健康管理には3つのステップがあります。

【第①…予防】

日頃から、質の良い睡眠、栄養のバランスを考えた食事、適度な運動などを通して生活習慣を整え、健康な身体作りをする事です。インフルエンザや新型コロナウイルスの予防接種を受けたり、感染症対策としてうがいと手洗いをする事。また、部屋を綺麗にして気持ちよく過ごしやすい生活環境を作る事も大切です



【第②…早期発見・早期治療】

定期的、継続的の健康診断を受けることで、自分の心身の状態を知る事。何らかの違和感があつた時に早めに受診したり、休養をとるなど、適切な対処をします。



【第③…治療・再発予防】

重症化しないように治療を続ける事。病気の合併症や後遺症を予防する事で、その影響を最小限に食い止める事が出来ます。また、ある程度回復した後に、再発しないように取り組む事です。

施設では、利用者様の健診を1年に2回行い、病気の早期発見に努めています。



冬野菜を食べよう

栄養士 村上育子

代表的なもので、大根・白菜・白ネギ・ほうれん草・ブロッコリー・かぶ・春菊・ごぼう・レンコンなどがあります。



冬に旬を迎える野菜は、寒さで凍ることがないように細胞に糖を蓄えます。

そのため糖度が高く、食べたときに甘く感じるという特徴があり、今が一番美味しく食べられる時期といえます。

水分を多く含んでいる冬野菜は、生で食べると体を冷やしてしまったため加熱調理をして温かものを食べることが大切です。



冷え性改善や粘膜保護、免疫力を向上させるビタミン等の成分が多く含まれているので、風邪等の予防にも役立ちます。

冬の野菜を上手に食事に取り入れ元気に毎日過ごしましょう。

